国際的な協力

内分泌攪乱作用については、そのメカニズムや化学物質との関わりの解明、簡単な測定方法の開発など、解明すべき部分や課題が山積しています。その対応には、国内関係省庁や関係機関と連携するだけでなく、国際的に分担し各国が協力して調査・研究を進めることが重要です。

国際シンポの会場

環境省では、平成10年度（1998年）から毎年、我が国において「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しています。国際シンポジウムでは、国内外の第一線で活躍している専門家の情報交換と共に、一般市民向けの特別講演やパネルディスカッションなども行われています。これまでに海外からの参加者約500名を含め延べ1万人の参加者がありました。http://www.env.go.jp/chemi/end/index3.html

OECD会議

また、我が国は、経済協力開発機構（OECD）が進めている内分泌攪乱作用に関する試験方法の開発や、世界保健機関（WHO）の内分泌攪乱化学物質に関するグローバルアセスメントのとりまとめ作業にも積極的に参加し、国際的に大きく貢献しています。

その他、英国、韓国などとも共同研究を行っています。

これからの取組

環境省では、平成10年（1998年）以来、「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」に従って、内分泌攪乱作用に関する調査・研究を進めてきました。

これまでの取組みから、内分泌攪乱作用について、人への影響だけではなく、広く生態系への影響も、また性ホルモンだけでなく様々な内分泌系、さらには内分泌系への作用を介した免疫系や神経系への作用も視野に置いて、一層幅広い基礎研究や地道な野生生物の観察などの科学的知見を蓄積していく努力が必要であることが明らかとなってきました。また、実際的な試験法の開発や化学物質を評価する方法などについて国際的な連携の強化も望まれています。

一方、化学物質についての関心の高まりの中で、内分泌攪乱作用についての正確な理解が深まるよう、広く国民に最新の科学的知見を説明するとともに、リスクコミュニケーションを図っていくことが求められています。

現在、これまでの取組みによって明らかとなってきたことと、まだ未解明のこととを十分整理して、国民のニーズに応えつつ、国際的にも貢献していくためには今後どのような取組みが必要なのか検討を進めています。

環境省
Ministry of the Environment

◆　問い合わせ先　◆
総合環境政策局環境保健部　環境安全課
〒100-8975　東京都千代田区霞が関1-2-2
TEL:03-3581-3351　　FAX:03-3580-3596

◆　関連サイト　◆
・環境省の内分泌攪乱化学物質問題への取り組み
http://www.env.go.jp/chemi/end/index.html

PRINTED WITH SOY INK
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
2004.7.26